

長谷川迷人的

# 水性カラーは 使ってナンボです!

使わず嫌いを  
なくそう!!



近年、数多くの水性塗料が登場しているが  
新たに国産アクリル塗料VICカラーが登場  
その特徴やいかに!?



模型塗装は今や水性カラーがスタンダード…いやいや今更なによってんのってところではあるのだが、プラモデルの先生なんて仕事をしていると、ビギナー、出戻りモデラー諸氏にとっても復帰を阻むハードルが塗料の刺激臭ということ思い知らされるのだ。故に近年の模型用塗料は水性系にシフトしているのだなあと納得。数多くの水

性カラーが模型店の店頭を賑わしている。そうした中、今回新たな水溶性のアクリル塗料『VICカラー』が発売された。

すでにご存知の方も多いただろう。

VICカラーは新進の国産メーカーの製品で、完全無臭に加えて水道水での希釈、洗浄が可能。またエアブラシ塗装と筆塗りのどちらに

VIC カラーはムラになりにくい?!



VIC カラーを筆塗りで使用した場合、ムラになりにくい(塗料の自己水平性)をチェック。希釈なしで平筆での塗り重ねを実践してみたAはプラ板に一度塗りした状態。以降常温で各10分程度乾燥させ、Bが2度塗り、Cが3度塗り重ねた状態だ。希釈なしでも塗料の伸びが良く、また乾燥することで確かに筆塗りで生じる塗膜の凹凸が収まり、ムラのない塗装面が得ることができた。

も適しており、エアブラシでは口径0.18ミリでも詰まらず、また筆塗りにおいては塗料の自己水平性(伸びが良く塗膜が平滑になる)に優れるので刷毛ムラが出にくい特徴がある。いや、これって凄くないか、実際のところどうなんだろうというわけで、今回からVICカラーの使用レポートを紹介していく。(文:長谷川迷人)

## 専用プライマーとの組み合わせで塗料の水平性をチェック!



VICカラー用プライマー(灰色)を専用薄め液を使い口径0.3ミリのエアブラシで10%程度希釈して下地に塗布、乾燥10分ののち筆塗りで色を2度塗り重ねたもの。塗料は水でわずかに希釈(5パーセント以下)している。塗装面への馴染みも良く、プラバンサンプルで感じた伸びの良さもプライマーでスポイルされることもなかった。乾燥促進のためドライヤーを使用しているが、冷風を使うことで平滑にムラが馴染む塗料の水平性を維持できる。

## 専用プライマーによる下地塗装をせずエアブラシ、筆塗りでプラスチックに直接塗装した塗膜をチェック!



こちらは敢えて下地にプライマーを塗装せずプラに直接塗装したもの。左側は口径0.3ミリのエアブラシでVICカラー用薄め液で5パーセント程度希釈し塗装した状態。サンプル中央部分が塗料を2度吹き重ねたもの。プライマーの下地塗装がなくても塗料の食いつきは良好で、はじかれたり塗りムラが生じることはなかった。右側はプラに直接筆塗りで3度塗り重ねた状態。こちらも問題なく均一な塗装面が得られた。